

4. 研究提案

<地理的分野>

1. はじめに

前回（平成12年の近中社京都大会）の大会で私たちは「学び方を学ぶ社会科学習」を研究主題にかけた。「諸資料に基づいて、多面的・多角的に考察し、その学びの過程を重視する学習」のすすめ方を考えた。常に変化し続ける現代社会に対応でき、生涯学び続ける生涯学習社会では、この力が基礎的な資質となるからである。さらに、学び続ける中から、次代を拓く力（よりよい明日のため、新しい社会を築いていく力）を育てるのに、どのような働きかけが重要か追究した。

地理的分野では、新指導要領で大きく学習のすすめ方が変化した時であった。それまでの地誌学習を中心とする学び方から、探求的な学び方を重視することが示されていた。みんなが大きな不安を感じ、その学習方法を模索していた。実践発表では、様々な地域の特色を捉える見方や考え方を実習を通して身につけるが、体験学習を取り入れることで、「身近な地域」の学習が効果的であることを検証した。新しい地理的分野の学習に糸口を得た思いであった。

大会の後、学校教育をめぐるのは、総合的な学習の時間への疑問が出され、学力低下の問題が危惧されている。教育界のゆれを感じ続けた6年間であった。今回の大会で、京都市では、今一度、「学び方を学ぶ社会科学習」を研究主題に掲げた。「確かな学力」の充実のため、社会科が担うべき「学び方を学ぶ学習の充実」について再度考えてみる。今回は基調提案で詳しく述べられるが、社会への関心の減退が指摘され、社会への無関心の広がり大きいことを取り上げてみたい。この改善・対策のため、学びの過程の中で、生徒たちが身の回りのさまざまな社会事象と自分とのつながり、関わりを感じる事が大切であると考え。そのためには、今学習していることは、自分にとってどんな意味があるのか。なぜ、このことを学んでいるのか自己との関わりを考え、問い続けることが重要となる。サブテーマにある「社会的事象を自己との関わりで捉える授業の試み」はそのような思いから設定されている。

今回、地理的分野で研究・実践事例として取り上げるのは、次の3つである。

1. 地理的分野で基礎・基本となるのが国名・県名の学習である。現状を踏まえて、「自己との関わり」をキーワードにさらなる定着をはかる手だてを提案してみたい。
2. 京都府を調べる時、「テーマの設定」に自己とのかかわりを重視する実践例。自分の知っている「京都」からスタートしてブレインストーミングを通して、テーマを決めていく。
3. 小中学生を対象に展開される「ジュニア京都検定」について検討する。京都に住む中学生にとって「ジュニア京都検定」を通して学ぶ「京都」はどのような活用の可能性があるのか。活用するならばどんな概案が考えられるか。

2. **国名・県名学習**は十分なのか

地理的分野の学習では、主な国の国名とその位置、日本の47都道府県の名称とその位置を身につけることが、世界や日本の枠組みを捉えるために不可欠とされている。これを土台に、「身近な地域」、「都道府県」、「国」と規模に応じて、地域的特色を捉える視点や方法を学習していく。確実に身につける必要があるとされているが、実際どれくらい定着しているのだろうか。今の学習で問題点はないのか知りたいところである。次に報告された2つの調査から、国名・県名の定着を考えてみたい。

(1) 高校生・大学生の世界認識の調査

日本地理学会 地理教育専門委員会（平成16年12月～平成17年2月実施）
大学生・高校生の世界認識の調査報告—日本地理学会からの提言

日本地理学会が、大学生・高校生に対して、国名を示し、世界地図中での位置を番号で答えさせる調査を実施した。ホームページで報告されている。全国の25大学3773人、高校は9校であり、1027人が対象。中学校で地理を学習した生徒達の将来の姿と考えれば、その調査結果は参考になる。結果を3つにまとめている。

○「地理」履修者は、国位置の認知度が高い。

大学生の正答率を見ると、高校時代に「地理」を学習した学生のほうが、学習しなかった生徒より正答率が高い。

○馴染みの薄い国の位置はかなり不正確

アメリカ、インド、ブラジルなど大国で有名な国の間違いは少ない。ギリシャ・イラクなど時事的な国名の場合、国名は知っていても、その位置については正しく認識していないことが多い。

○中学までに世界の国々の3分の1は覚えていたのに・・・

高校で「地理」を学習しないと、せっかく身につけた基本的な知識が忘れ去られることがより鮮明になった。(調査は中学で世界の国の3分の1ほどは学習して、定着していることを前提にしている)以上である。さらに地理学会からの3つの提言をおこなっている。1つは、小・中・高校を通じて地図(地図帳・地球儀)の活用を推進すること。2つ目は、高校での地理学習を拡充すること。3つは、基礎的な学習(国の名称や場所をしっかりと覚えること)を充実させることを挙げている。日本地理学会の「高校での地理必修」主張はひとまず置くとしても、「グローバル化する現代社会を生き抜く力を身につけ、国際社会において日本社会が確固たる地位を築いていくには、国際感覚を身につけることが必要である。そのベースとなる最低限の地理的教養は地理教育によって醸成される。」という日本地理学会の提言はとても重要である。国名やその位置など基礎的な知識が、高校時代に地理を学習した者が、正答率が高いということは、一度身につけた知識を繰り返し学習することの重要性を示すものである。大国以外の国の場合、たとえ時事的に頻繁に取り上げられる場合であっても、イラクの場所がわからない大学生が44%もいると報告されるように、正しく認識されていないことが多い。自分とのかかわり、で捉えることの大切さを示していると考えられる。地図帳の活用はいうまでもない。

(2)中学生の県名認知度調査(中学生はどれくらい知っているのか。)

帝国書院 「地図・地理普及特別班」 (平成16年1月～3月実施)

中学生の県名・国名認知度調査 結果報告(中学校 地図・地理のしおり 特別号)

この調査は、全国70校の中学生生徒約12,000人を対象におこなっている。県名認知度については、47都道府県の位置に1～47までの番号をふった白地図に、県名を答えていくものである。調査結果を抜粋してみると、

○中学生の平均認知度(アンケート調査の正解率)は、55.1%。(小学生を対象の別の調査では、小学生が42.0%であったことを報告書の中で紹介されている。)

全国的に、北海道、青森、沖縄の認知度は高く90%をこえている。かたちが特徴的であったり、本州の北や南に位置するからである。全体の4分の1の生徒は、ほぼ確実に47都道府県を認知していることも明らかになったが、全体では認知度60%未満の県が34県、全体の72%ある。近畿地方の中学生の認知度が30～40%と低い県は大分 宮崎 群馬 栃木 山梨の5県であると報告されている。

○認知度が低い県の場合は、無回答が多く、イメージが持てていない県であるようだ。

○県名誤認のパターンにもいろいろある。隣接県・近隣県との誤認、同じ漢字が使われている県との誤認、県庁所在都市名との誤認、その他、イメージにまつわる誤認である。

この報告書は、「小学校高学年の調査結果と比較して各県の認知度は13%ほども改善され、中学で地理学習をした成果と考えられる。認知度が50%にみえない県が17県(47県の中の36%)も存在することは、大きな問題であり、県名認知度の向上は、今後とも社会科教育の大きな課題のひとつであるといえよう。」とまとめている。

上記(1)・(2)の2つの調査から見てくることは、

- ・学校での地理を学習することにより、国・県の位置認知度はあがる。
小学校時より中学で地理を学習することで中学生の県名認知度は上昇している
大学生について高校で地理を履修した者のほうが、国位置認知度が高い。
- ・国名や県名など、基礎的な知識が確実に定着しているとはいいいにくい
県名認知度には問題があり、県名認知度の向上は、中学社会科教育の大きな課題。
国名・県名の学習は反復学習が必要であるが、十分にできていないのではないか。

3. **ジュニア京都検定**は中学校で活用できるのか

今まさに、京都では「ジュニア京都検定」というプロジェクトが動き出す。11月20日～25日の間に、原則として5・6年生全員が各小学校で「基礎コース」を受検している。さらに「発展コース」は来年の2月実施が予定されている。去年、平成17年の秋に発表された計画が、その姿をあらわす。「ジュニア京都検定」の全容はつかめていないし、評価にいたっては当然定まっていない。問題点を指摘する声もあるが、着実に小学生を中心に進められようとしている。来年には「ジュニア京都検定」を体験した子供達が、各中学へ1年生として入学してくる。中学校で、「ジュニア京都検定」をどのように活用できるのか、まず明らかにしておきたい。

(1) 「ジュニア京都検定」は、学びの目標となり、学習意欲を高める効果が期待できる。

「ジュニア京都検定」は「検定」形式で実施される。確かな学力向上のために2002アピール「学びのすすめ」の中の確かな学力向上のための5つの方策の2、発展的な学習で、一人一人の個性等に
応じた子どもの力をよりのばす。と、3、学ぶことの楽しさを体験させ、学習意欲を高めるにあたる。英検や漢検とともに、生徒達が日常学習や発展的な学習の目標にできるものである。英検や漢検は市内中学校でも着実にその存在価値を根づかせ、多くの生徒が学びの目標としている。同じように「ジュニア京都検定」は「京都」を学ぶ中学生に目標を示し、さらに発展学習への道も開いてくれる可能性をもっている。

(2) 「体験」を重視する「検定」なら、身近な地域＝京都をとらえる上で効果がある。

「ジュニア京都検定」は、京都検定があり、そのジュニア＝小・中学生版ととらえられている感が強い。京都検定は、京都についての知識を問う知識重視型の検定である。しかし、「ジュニア京都検定」は、現在発表になっている内容を検討してみると、京都についての知識を問うというだけのものではない。筆記試験と作文試験があり、筆記試験は知識を問うものであるが、作文試験は、「体験したことを」を400字詰原稿用紙一枚以内にまとめるのである。知識確認とともに、「京都」についての体験が要求されている。体験が重視されている。小中学生の感受性豊かな時期に、京都に残る文化財の見学、伝統工芸や伝統技能を体験することはとても大切だといえる。将来多くの生徒が京都に残り、京都を支え、次の時代に「京都」を受け継いでいく上で大きな力となる。これは知識よりも、実物に触れておき、自分自身の五感を使って記憶にとどめておく学びをすることがとても重要なことである。

「ジュニア京都検定」に関するホームページで紹介されているが、推進プロジェクト第1回会議で、
「小・中学生はできるだけ現場へ行って歴史・文化財に触れてほしいです。」

「日本を支える生活文化の大切さを、体験を通して身につけていただくと大変嬉しいです。」

という意見が委員の中からだされ、体験を重視していると推測される。

「ジュニア京都検定」が体験を重視するものであれば、自己とのかかわりを捉えて学ぶ上で大きな力となる。社会科では、体験学習を取り入れることで「身近な地域」での学習に大いに効果があることは、前回の京都大会地理的分野の研究発表の中でも検証したとおりである。

しかし、次に問題になるのは、小中学生が、文化財を見学したり、伝統工芸・伝統芸能の体験ができるのかどうかである。見学や体験が可能かどうか、「ジュニア京都検定」に体験を重視できるかの

ポイントがある。もちろん、以前からいろいろな小中学生が見学や体験できる取り組みは着実に進められてきた。しかし、その活動は、様々な理由から十分に効果を上げていたとは言えない。状況に変化がなければ、小中学生が体験をする条件は十分ではない。

小中学生の体験の可能性を広げる活動として、現在京都市では、「みやこ子ども土曜塾」が展開されている。平成17年の秋から、休業日になった土曜日に、保護者・地域・企業・NPOなど幅広い大人（市民）が子供達に学習活動や体験活動を提供する取り組みである。ここで行われる様々な活動が、「京都」の体験活動になる。京都市内の小中学生には、隔月発行の「Go Go土曜塾」が配布される。大きさA4版で、16ページほどのパンフレットである。平成18年の4月なら4・5・6月の活動スケジュールが掲載されている。自分の興味・条件の中からいろいろな体験を選べる環境が整いつつある。この土曜塾の活動がさらに充実し、整備されれば、中学生に十分な体験の場を保障できる。そうなれば、「ジュニア京都検定」は中学校でも十分に活用できる。土曜塾で体験したことを、準備されたテキストをもとに学校で学びなおして「京都」を学習し、「ジュニア京都検定」で確認するのである。

(3) 京都の学習から日本の文化を学ぶという広がり、グローバル化が期待できる。

「ジュニア京都検定」の正式な名称は、「歴史都市・京都から学ぶ、ジュニア日本文化検定」である。生徒達は自分達にとって身近な地域「京都」を学習することで、日本や日本文化を学ぶという発展や深まりが期待できる。社会科学習の目標は、公民的資質の基礎を養うことである。その資質の中に日本を知る、わが国とは何なのかを学び続ける姿勢が入っていると考える。地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習を通して「日本とは何か」を学んでいる。「ジュニア京都検定」に取り組む京都の生徒達は「京都」を学ぶというバイパスを通っても、日本の特色を学ぶという、社会科学習の目標に近づける効果があると考えられる。

4. 国名・県名学習の取組事例

国名・県名の学習を見直し、基礎的な知識を確実に定着させるためには、次の3点が重要であると考えられる。

① 地域区分を明確にする。

世界の国は、6大州、日本は都道府県を7地方区分にしっかりグループ分けさせる。歴史を時代区分で大きくみるように、世界や日本の枠組みも地域区分で大きく捉えるようにさせる。国や都道府県の認知も地域区分がしっかりしていれば大きな誤認がなくなる。

② どこまで覚えるかははっきりさせて、徹底してチェックテストなどをおこなう。

地理的分野の基礎・基本となる知識を身につけるのだから、都道府県名47は確実に覚える。国名の場合、「主な国」で数は世界の国約190のうちいくつかははっきりしていない。どれだけ覚えるかを数値で示して目標を持たせる。

③ 国や県の自分なりのイメージを持たせる。

国名・県名学習の定着を高めるためには、自分とのかかわり、自分なりのイメージで国や県とのかかわりを作っておくことが大切。反復練習する上でも効果的だと考える。

(1) 主な国とはいくつぐらい

世界で、身につける「主な国」の数はいくつ。190か国ほどある国名のうち、いくつ身につけるかは明記されていない。都道府県名は47としっかりしているので対照をなす。おおよそ、3分の1、60～70か国と考えられる。これだけは覚えようと、目標の設定が必要になる。現実的には、生徒達がまず手にする教科書がどんな国を「主な国」と考えて取り上げているかが影響してくる。

京都市が広域採択している大阪書籍の教科書では、各州の説明の中で、地図を掲げ、国名を地図中

に記入している国がある。それらの国が、教科書の考える「主な国」である。その判断基準は、「人口・面積・国民総所得（GNI）・日本との貿易額のいずれかが世界で上位30か国に入っている国のほか、テレビや新聞によくでてくる国も取り上げています。」としている。結果68か国があがっている。そして巻末の「世界の主な国別資料」に取り上げられている世界の国は、92か国である。これらを参考に目標の設定が必要になる。

後述の指導展開例では、教科書の「主な国」をもとに、国名72、首都名28とまとめて100にしてまとまりのある数で目標を設定している。（図1の「世界の国・首都」がその一覧である。生徒達には、図2の白地図を配布して、自分で空欄のみに記入して図1を完成させるのが良い。）

(2)自己との関わりで定着を高める手だて

国名・県名の学習をいかに定着させるか。名称と地図上の場所だけで身につけるのは大変である。いかに自分との関わりを見つけ出して、自分のものにしていくかが大切である。国の形や県の形が自分にとって、長靴であったり、象の顔であることでも、大切な自己とのかかわりであると考え。その他にも次のような取り組みで、自己との関わりを高めることができると考える。

○地図帳の活用

地図帳を学習時、常に身近に置き、でてきた地名を地図で確認。マーカーで調べた地名に印をして、地名の周りの地図を見ておく（地図を読む）、何度も繰り返すことで、いろいろな国や県について自分との関わりが作られていく。

図1 世界の国・首都

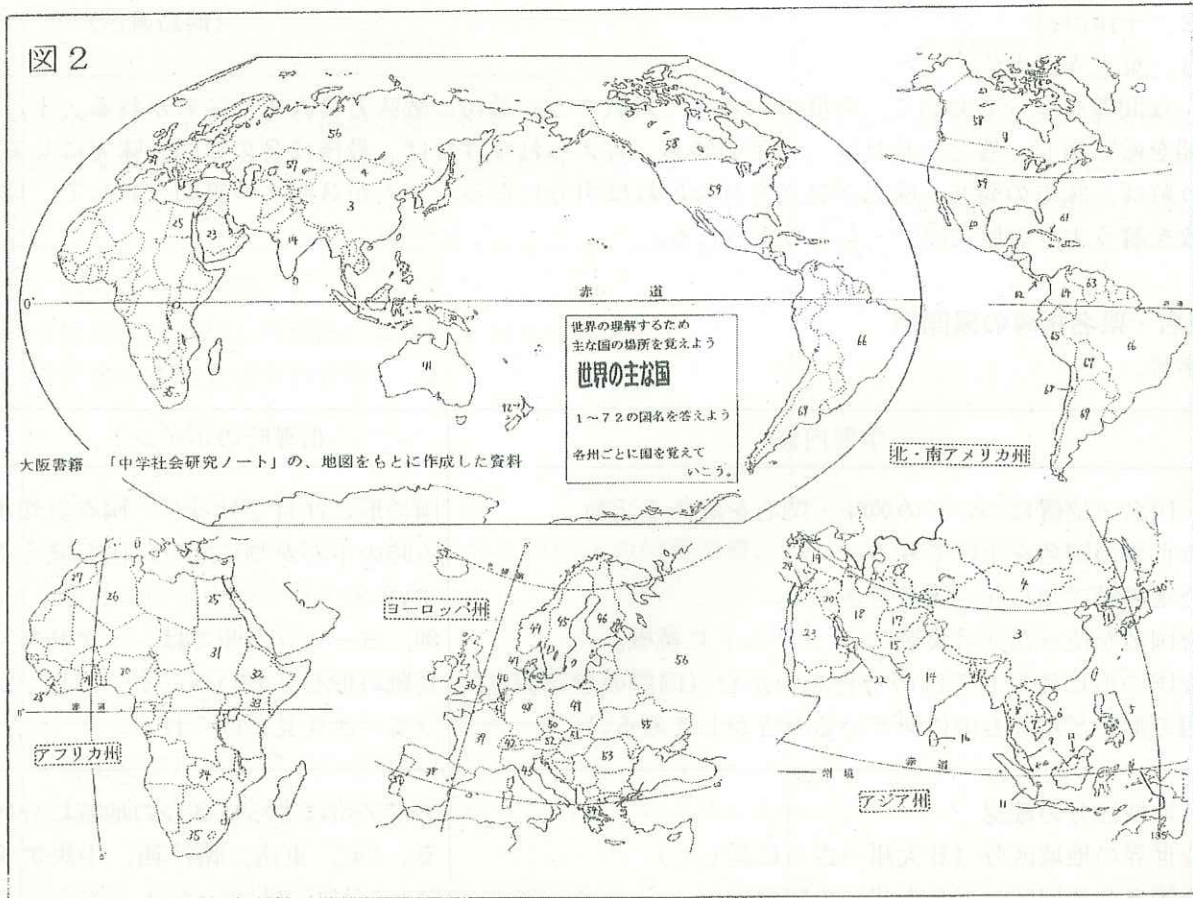
	年	組	氏名
国名			首都名
★ 1 大韓民国	73		ソウル
★ 2 朝鮮民主主義人民共和国	74		ピョンヤン
★ 3 中華人民共和国	75		ペキン
4 モンゴル			
5 フィリピン			
6 ベトナム			
7 カンボジア			
★ 8 タイ	76		バンコク
★ 9 マレーシア	77		クアラルンプール
★ 10 シンガポール	78		シンガポール
★ 11 インドネシア	79		ジャカルタ
12 ブルネイ・ダルサラーム			
13 バングラディッシュ			
★ 14 インド	80		デリー
15 パキスタン			
16 スリランカ			
17 アフガニスタン			
18 イラン			
19 トルコ			
20 イラク			
21 クウェート			
22 アラブ首長国連邦			
23 サウジアラビア			
24 イスラエル	82		エルサレム
★ 25 エジプト	83		カイロ
26 アルジェリア			
27 モロッコ			
28 リベリア			
29 ガーナ			
30 ナイジェリア			
31 スーダン			
32 エチオピア			
33 ケニア	84		ナイロビ
34 ザンビア			
35 南アフリカ共和国			
★ 36 イギリス	85		ロンドン
37 ポルトガル			
★ 38 スペイン	86		マドリッド

課題

◎ 地図を見て1~72までの国名を答えなさい。
◎ 73~100までの首都名を答えなさい。それ以外は必要なし。
★印は特に重要な20ヶ国です。しっかり覚えよう。

	国名	首都名
★ 39 フランス		87 パリ
★ 40 オランダ		88 アムステルダム
41 ベルギー		
42 スイス		
★ 43 イタリア		89 ローマ
44 ノルウェー		
45 スウェーデン		90 スtockホルム
46 フィンランド		
47 デンマーク		
★ 48 ドイツ		91 ベルリン
49 ポーランド		
50 チェコ		
51 スロバキア		
52 オーストリア		92 ウィーン
53 ルーマニア		
54 ギリシャ		93 アテネ
55 ウクライナ		
★ 56 ロシア連邦		94 モスクワ
57 カザフスタン		
★ 58 カナダ		95 オタワ
★ 59 アメリカ合衆国		96 ワシントン
60 メキシコ		97 メキシコシティ
61 キューバ		
62 パナマ		
63 ベネズエラ・ボリバル		
64 コロンビア		
65 ベルギー		
★ 66 ブラジル		98 ブラジリア
67 ボリビア		
68 チリ		
69 アルゼンチン		99 ブエノスアイレス
70 パプアニューギニア		
★ 71 オーストラリア		100 キャンベラ
72 ニュージーランド		

図 2



○1 テーマ47都道府県調べ

都道府県のイメージ定着のためには、1テーマに対する47都道府県ごとの事物をあげて比較する方法が有効である。例えば、鉄道が好きなら、その県を代表する有名な駅や駅弁を上げる。それらを通して、その県をイメージするのも一方法である。(ただし、沖縄は鉄道がないので完全には無理)

例、プロ野球選手の出身県 有名な温泉 高校野球の出場校 その県がNO1の生産物など

○スリーヒントクイズ

国や県をイメージできるような、自然地形や著名な事物など3つ取り上げて、その国や県を答える。例えば、(万里の長城 パンダ 黄河)＝中国 (アマゾン川 サッカー コーヒー)＝ブラジルなどである。実際には、すぐにこれで生徒同士でゲームは難しい。ゲームをはじめるために、スリーヒントを作ることで、自分とのかかわりが出てくる。教科書・地図帳・資料集などを活用したり、時には新聞から、その国に関する記事のスクラップを作って見つける方法もある。その時に、中国は、中学で卓球部に入り活動している生徒達にとっては、中国＝卓球というイメージでパンダや黄河の代わりに卓球が入ることのほうが「中国」を自己とのかかわりでとらえていることになる。

実際ゲームをするなら、取り上げるヒントは、自然地名、産物、世界遺産(歴史的史跡や天然記念物なども)が適当であり、国名や首都都市名や有名都市名の入った事柄(フランスパン、ドイツ語、ペキン五輪、ローマの休日)や人名(ロナウジーニョ＝ブラジル、ジョン・F・ケネディ＝アメリカ)などは適当ではないと考えている。2人1組で、お互いヒントを出し合って、いくつあたるかを競うのもいいし、クラスのみんなからスリーヒントを集めて、全体で挑戦してみてもよい。

都道府県に関しては、同じ3ヒントでも、かなり細かい事項に関する問題も作れる。3つのうち、2つは難しいものにして、1つは確実に分るものを作る。例えば

奈良県の場合

- 1, インターネットの人口普及率N04 (2005年)
- 2, 十津川村
- 3, 東大寺の大仏

資料集アクティブ地理巻末資料
(浜島書店)

こんな問題を作っておいて、今度は、4人で対戦する。最初に敵味方2人ずつに分かれる。1, 2の質問を敵に出し、答えられれば、相手の勝ち、答えられなければ、最後に3の質問を味方にして答えられれば、味方の勝ち、味方が答えられなければ引分になる。4人が3回ずつ質問合計して、12回で勝敗を競うような形式のゲームも考えられる。

(3) 国名・県名指導の展開例

国名学習

	学習内容	指導時のポイント
準備	<ul style="list-style-type: none"> ・国名・位置についての興味・関心を高める活動 ☆世界の国名を上げてみる。 ☆地図帳で知らない国名をさがす。 ☆国名を使った「言葉遊び」「ゲーム」に挑戦。 ☆国の形に注目して国の特色をつかむ(国境の形に注意、国の形がどんなものに似ているかがしてみる。) 	<p>国の形に注目させると、国を認知する時の手がかりになり、国を覚えやすい。</p> <p>例、ヨーロッパ州では、イタリア長靴の形をしている。すぐに見つけて、次を見つげられる。</p>
地域区分	<ul style="list-style-type: none"> ・地域区分の確認 ☆世界の地域区分(6大州→さらに詳しく) ☆国名⇔地域区分(6大州)の練習 	<p>アジア州はさらに6つの地域に分ける。(東, 東南, 南, 西, 中央アジアとシベリア)</p>
国名学習	<ul style="list-style-type: none"> ・国名と地図上の位置の学習(一部首都も) (☆基本になる20か国を学習) ☆「世界の国」白地図を使って「世界の国名・首都」のプリント記入 ☆地域区分ごとの白地図を使って、国名と位置を確認 ☆国名⇔地図上の位置の練習 ☆チェックテスト ☆世界地図での国名⇔地図上の位置の練習 「世界の国・首都」・・・図1 「世界の主な国」白地図・・・図2 	<p>学習は「世界の国名・首都」のプリントにある72か国, 28首都を目標にする。最初に、基本の20か国を重点学習する方法もある。(基本の20か国はプリントに☆印がついている国)</p> <p>地域ごとに、チェックテストをおこない順番に覚えていくのが良い。</p>
略地図	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の略地図の練習 ☆世界の略地図の描き方をいくつか練習 ☆世界の略地図を描き、指示された国の場所を書き込む 	<p>略地図の描き方には、いろいろあり、いくつか紹介して、自分にあったものを習得させるのが良い。</p>
定着	<ul style="list-style-type: none"> ・国のイメージを高める練習 ☆国についての3ヒントを作る(調べ学習) ☆班やグループで3ヒントクイズをおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国々をイメージ化には、夏休みの課題などで、国調べ新聞・国カード ・世界の国カルタなど様々な取組がある。

県名学習

	学習内容	指導時のポイント
復習	・ 小学校で学習した47都道府県の復習 ☆47都道府県名の正しい読み方と漢字練習	小学校での学習を思い出させる。 ポイントとなる読みや漢字を間違っていないか最初の点検が大切。
地域区分	・ 地域区分の確認 ☆地域区分された白地図に着色して地域区分を確認 ☆県名⇔7地方区分の練習	
県名学習	・ 都道府県名と地図上の位置の学習 ☆地方ごとの白地図を使って、県名と地図上の位置の確認 県名⇔地図上の位置の練習 ☆チェックテスト ☆日本全図の白地図で県名と地図上の位置の確認	日本全図の白地図の場合、まず琵琶湖と富士山の位置を確認してそこから県名を確認していくとわかりやすいことを気づかせる。
庁所在地	・ 都道府県庁所在都市の学習 ☆日本全図の白地図で県名と県庁所在都市名がいえる、わかるように練習。 (発展) 日本の旧の国名についても学習する。	
略地図	・ 日本の略地図の練習 ☆日本の略地図の描き方をいくつか練習 ☆日本の略地図を描き、県の場所を書き込む	世界と同じで、いくつか紹介して、自分にあったものを習得させる。
定着	・ 都道府県のイメージを高める練習 ☆1テーマ47都道府県調べを行う ☆県についての3ヒントクイズを考える。(調べ学習) ☆班やグループで、3ヒントクイズを行う。	世界と同じで県をイメージ化する取り組みはさまざまなものがある。

5. 実践事例1 「テーマ設定」に自己との関わりに視点を当てた授業

平成18年6月実施 京都市立陶化中学校第1学年

(1) 単元名 『日本の都道府県について調べてみよう』

(2) 単元設定の理由

① 教材観

現行の中学校学習指導要領（平成10年12月）解説「社会」は、都道府県の学習について次のように述べている。「都道府県の中から、二つ又は三つの都道府県を取り上げ、その地域的特色を追究しとらえる学習を通して、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることを主なねらいとしている」このようなねらいをふまえ、身近な地域の学習との関連を図りながら京都府の学習

を行うこととした。

今回の学習は、まず自分達の住んでいる地域に対する関心を高め、意欲的に取り組ませるために、「京都」というキーワードから連想できるモノ（自分達の知っている京都府についての基本的な情報）をあげさせるブレインストーミング（BS）から始める。あがってきた項目を分類（KJ）し、それが次に京都府を調べるときの「テーマ」になることに気づかせることで、与えられたテーマを調べるよりも興味を持って取り組めるのではないかと考える。また、自分達の住んでいる地域であることから、様々な「テーマ」が出てくる可能性が高く、そこから多面的・多角的に追究させていくことができる

②研究主題との関わり

本大会の研究主題である「学び方を学ぶ」ために最も適した学習形態は、「調べ学習」であると考えられる。自分達でテーマを設定し、そのテーマに即した内容で調べ学習を進める中で、生徒達は意欲的に創意工夫し、「学び方を学ぶ」のである。では、どのようにしてその「意欲」を引き出すのか。

調べ学習においてまず大切なのは、「テーマの設定」である。いかにして生徒達が興味を持ってテーマ設定をしていくか。ここにその後の調べ学習の成否がかかっていると言っても過言ではない。1年生では、総合的な学習の時間の取り組みで「話し合い活動」を導入している。これとリンクさせることで、より一層活発な意見交換が期待できると同時に、自分達が持てる知識を総動員した結果がテーマ設定につながっていくことで、その後の調べ学習に意欲的に取り組めると考える。

実際の調べ学習に当たっては、「都道府県の調べ方」で考えた方法を用いながら進めさせたい。図書館やコンピュータも積極的に活用させ、最終的には夏休みの課題である「都道府県調べ」へとつなげていきたい。その際、グラフや統計の見方については適宜指導を入れていきたいと考える。

③生徒観

本校はJR京都駅の南に位置し、世界遺産に登録されている東寺や西本願寺からもほど近く、「京都」について学習するには交通面や文化面から見て「好立地」であるといえる。しかし、地元に対する生徒達の関心は必ずしも高いとはいえない。また、小学校3・4年時に「わたしたちの京都」を利用して地域学習を経験しているとはいえ、その知識は「京都市内」にほぼ限られ、京都府全域には及ばない。

全体的な傾向としては、歴史的な分野に関心のある生徒が多く、地理的分野に対する苦手意識が強い。このようなことから、歴史的な内容と関連づけて学習を進めていくのが効果的なのではないかと考える。

1年生では、総合的な学習の時間の取り組みとして「コミュニケーション能力の向上」を目指す「話し合い活動」を取り入れている。本時ではこれとリンクしてブレインストーミングという手法を活用する。本学級は1年生としてはおとなしく、発言も控えめなので、班討議を通して活発な意見の交流ができるようにしたい。

(3)単元のねらい

- ①都道府県に対する関心を高め、その調査に意欲的に取り組ませ、都道府県規模の地域的特色をとらえようとする態度を養う。
- ②都道府県の地理的事象から課題を設定させ、それを環境条件や人々の営みなどと関連づけて多面的・多角的に追究させるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を考察させる。
- ③都道府県に関する地図や統計その他の資料を収集させ、有用な情報を適切に選択して活用させるとともに、都道府県の地域的特色を追究し考察した過程や結果をまとめさせたり、発表させたりする。
- ④都道府県の地域的特色とともに、都道府県の地域的特色をとらえさせる視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解させる。

(4)指導の実際

	学 習 活 動	教師の支援・配慮事項	評 価 規 準	評 価 方 法
導 入	<p>1 BSの説明と練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明を聞いた後、班毎に分かれて、BSの練習をする。 →キーワードは「イチロー」など。連想できるものは全てあげる。 <p>2 KJ法の説明と練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連想してあげたものを、自分たちで決めた項目に分類していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な説明の後、実際に少し時間をかけて行うことで、この後の話し合い活動がスムーズに進むようにする。 ・机間指導し、意見が出やすくする。 ・「～系」など、少し例をあげると良い。 		
展 開 1	<p>3 BS「京都」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「京都」というキーワードから連想できるものをすべてあげ、メモしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議長とメモ係を決め、出た意見はすべて書きとめさせる。 ・班内の意見や他の班の意見をワークシートに記録させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の持つ知識を活用し、話し合い活動に参加している。 (関心) 	<p>観察 記述内 容</p>
展 開 2	<p>4 分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班内で出た意見を分類する。分類項目も班で決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニークな意見も重視しながら、基本的な情報をしっかり押さえておく。 		
展 開 3	<p>5 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類したメモを模造紙に貼り、黒板に貼り付けて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導し、わかりやすい分類になるようにアドバイスを与える。 		
ま と め	<p>6 次の時間に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の分類が、次の調べ学習のテーマになることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に調べ学習を進めるか、資料を集めておくように指示する。 		



(5)考察

①指導後にみられた生徒の学びの状況

5分間という短い時間にも関わらず、ほとんどの班が50以上の意見を出し、またその大部分が「京都」に関わりの深いものであった（東寺・金閣寺などの文化遺産や、西陣織などの伝統産業）ことから、生徒達の意欲や関心は十分に引き出せたのではないかと思う。実際に、滞ることなく意見交流は行われており、分類についても班員全員で熱心に考え、進めていた。

「京都府」についての調べ学習は、本時を含めて3時間構成となっている。残りの2時間は、本時の意見を参考に、京都府について調べるとしたらどのようなテーマ設定が適切かを考えて、実際に調べてみるという1時間と、教科書・地図帳という範囲でデータを集めるとしたら、どの程度の調べ学習ができるかを京都府を例に行ってみるとする1時間である。この中で生徒達は、基本的なデータを手に入れる手段を理解し、夏休みの課題である「都道府県調べ」につなげていくことができたと思う。

②残された課題と今後の改善

意見交流は十分にみられたが、今後の課題としては以下のような点が上げられると思う。

1. 「京都」というイメージが「京都市」に限られ、特に身近な地域（東九条）に集中した（実際に京都府下に関わる意見は、「丹波」しか出なかった）ことから、京都府全体に視野を広げるような指導が必要である。
2. 今回の学習を、夏休みの課題である「都道府県調べ」につなげていくことを考えていたが、興味や関心を引き出すことはある程度できたと思うが、テーマの絞り込みを行えたのは一部の生徒のみであった。本時のねらいを十分に生徒達に伝えることができなかったということであろう。

今後の授業では、ねらいを伝えるだけでなく、その後の学習のつながりについても具体的に示していく必要があると考える。

<授業用ワークシート>

【京都府について調べよう～その1～】

1年()組()番 名前()

<テーマを考えよう>

1 プレゼンテーション(BS)をやってみよう(輪読)

BSの約束

- ・キーワードに関わる物・人・事・状態などを、どんどん出すこと。
- ・自由な発想で意見を出すこと。
- ・出された意見について「良い・悪い」などの批判はしないこと。
- ・出された意見の付け足しや変形でもよろしい。
- できるだけたくさん意見を出そう!

制限時間:5分間 議長:() メモ係:()

キーワードは「 』

◎班員の意見

2 みんなの意見を分類しよう

◎分類の項目を決めよう(いくつに分けても良い)

- | | |
|----------|----------|
| ・項目1→() | ・項目4→() |
| ・項目2→() | ・項目5→() |
| ・項目3→() | ・項目6→() |

◎分類してみよう

3 BSをしよう(本番)

制限時間:5分間

キーワードは『京都』

◎班員の意見

◎分類項目と分類

4 他の班の人の意見を聞こう

◎気になる意見を書き留めよう

5 調べてみたいテーマを考えよう

6 今日の学習で、おもしろい(興味深い)と思ったことや、新しい発見があったら書いてみよう

【京都府について調べよう～その2～】

1年()組()番 名前()

<テーマに沿って調べてみよう>

1 調べてみたいテーマを決めよう

2 そのテーマに決めた理由は何ですか?

3 そのテーマについて、具体的に何を調べれば分かると思いますか?

4 実際に調べたことをまとめてみましょう。(プリントに書ききれなければ、ノートに書いてください。)

(1) 実際に調べた資料は何ですか?

(2) 調べた内容を、テーマに沿ってまとめてみましょう。

【京都府について調べよう～その3～】

1年()組()番 名前()

<基本情報を手に入れよう>

1 京都府の特色をつかむためには、何を知らなければならないと思いますか?

2 教科書と地図帳から分かることをまとめてみましょう。

6. ジュニア京都検定の活用

「ジュニア京都検定」の活用を考える時、地理的分野では次のような活用が考えられる。

(1) 地域の規模に応じた調査を行い地域的特色を捉える調べ方、学び方を身につけると、「身近な地域」や「都道府県」の調査対象として「京都」を取り上げやすくなる。生徒自身の生活体験、小学校での「ジュニア京都検定」の取組などにより「京都」の地域的特色をとらえ直し、調査課題の設定がしやすく、より発展的な課題へ進むことができる。

(2) 世界的視野からわが国の特色を捉える学び方を進める時、産業の面からの追究、生活・文化の面からの追究ができる。伝統工芸品、街並み保存をに焦点をあてて学習できる。

伝統工芸品……国際的視野で見ると、日本は先進工業国としての特色が大きい。その反面、国内には地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられる。その例として、西陣織や清水焼を生産する京都の伝統工業を取り上げて追究することができる。伝統工業について、かかえる問題点、現代社会に適応するための改善点や発展策などをさまざまな点から検討することができる。

街並み保存……国際化時代、国際交流が進む中で、日本文化の特色を明らかにして、その伝統的文化の見直しや継承を考えて行こうとする動きが広がっている。京都では東山周辺の伝統的な街並み保存を行い、そのために建物の高さ制限をはじめさまざまな制限をおこなっている。文化の継承は京都に生活する者の日常生活とのかかわりが大きい。文化の継承とは、歴史的景観の保存と、今京都に住む人々の都市機能充実との間でゆれる京都の問題である。保存と開発、机上の話ではなく、生徒自身の自己とのかかわりの中でわが国の伝統的な文化を継承していくか考えることができる。

社会科の授業の中で上記のように、「京都」・「ジュニア京都検定の大きなテーマ」を題材に取り上げる以外にも、総合的な学習の時間、社会科の選択授業などで時間的にも十分余裕を持ち、様々な面から「京都」の特色や「ジュニア京都検定」の目標（歴史都市京都から学ぶ）を追究する方法もある。

次にいくつかのポイントになる点をあげ、以下に取り組み概要をあげておく。

○実際の体験を重視するために、フィールドワークに取り組める条件整備を行う。授業時間内での活動には限界があるので、「土曜塾」などに参加することと連動して学習を進める。

○校外で行った体験活動やフィールドワークを学校の授業で学びなおすために、ジュニア京都検定用の「テキスト」と映像資料（ビデオ教材）を活用する。

○ビデオ資料は、京都市視聴覚センターの活用が不可欠である。京都関係のビデオは充実している。センターは、社会教育用と学校教育用のビデオ目録を2種類作成しており、その目録を使って必要な資料を見つけることができる。無料であり、学校間のメール便を使えば、借りるのも返却も簡単な手続きですむ。注意すべき点はいくつかある。制作年代が古いものもある。対象が社会教育用は説明が難しいものもある。限られた時間の中では、部分的な活用も必要である。

○「ジュニア京都検定」受検を目標に掲げるならば、授業の最初に、前回の重要学習ポイントの定着を確認するような小テストを毎回行って知識の定着を図ることも必要になる。

○概要では、15回を構成になっているが、1回が2時間続きの授業であれば、かなり余裕を持ってビデオを解説を入れながら視聴できるし、体験を発表したり、意見交流を盛り込んだ授業を構成できる。15のテーマはそれぞれの学校事情により、置き換えをしていくことが必要になる。伏見区の学校であれば、伝統工芸品のかわりに、伏見の酒造りを取り上げたほうが良いし、校区に歴史遺産や有名な寺社がある学校では、当然そこをテーマに取り上げるべきである。以下にあげた概要はほんの一例である。テキストを使用する場合は、テキストの順に学習する学習方法が生徒にとっては進めやすいだろう。

選択社会科での取り組み概要

テーマ	学習内容 (○) と重要学習事項 (☆)	映像資料等
1 京都の行政区	<p>○京都の代表的な社寺やおみやげなどを10個書き上げてみよう。</p> <p>○京都の現在の行政区を確認してみよう。</p> <p>○ポイントになる場所はどこにあるのか。行政区で確認（金閣寺＝北区，清水寺＝東山区，二条城＝中京区，京都駅＝下京区など）</p> <p>○この講座でがんばる目標を書こう。</p> <p>☆京都の行政区，自分がすでに知っている知識を元に京都のイメージを再確認する。</p>	<p>7393</p> <p>「空から見た京都市（改訂版）」</p> <p>10分 小学校 2000年</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>映像資料の情報</p> <p>教材番号</p> <p>タイトル</p> <p>収録時間 対象</p> <p>制作年</p> </div>
2 京都の世界遺産	<p>○世界遺産とは何ですか。</p> <p>○17の社寺・城を書き上げてみよう。</p> <p>○京都世界遺産の表を作ってみよう。</p> <p>☆世界遺産，京都文化遺産の17社寺・城</p>	<p>6033</p> <p>「世界遺産 古都京都の文化財」</p> <p>15分 社会教育</p> <p>1995年</p>
3 平安京	<p>○平安京の地相を確認しておこう。</p>	<p>3132</p>

	の街	<p>○平安京にはどんな怨霊対策がしてありますか。</p> <p>○平安京はどんな都だった。</p> <p>○平安京のポイント地点は、いまはどこ？</p> <p>☆四神相応の地，平安京，大内裏，羅城門，朱雀大路，安倍清明，陰陽師</p>	<p>「京都の魅力 美のすべて6 宮廷文化」</p> <p>31分 社会教育</p> <p>1994年</p>
4	秀吉と京都	<p>○秀吉と京都のかかわりを見てみよう。</p> <p>○秀吉が京都に作った城をしらべよう。</p> <p>○秀吉の改造で京都はどう変わったか。</p> <p>○秀吉が作った大仏を調べよう。</p> <p>☆聚楽第，伏見城，御土居，方広寺・大仏，寺町・寺ノ内</p>	<p>1945</p> <p>「秀吉と京都」</p> <p>15分 小（高学年）</p> <p>1988年</p>
5	伝統的な町並	<p>○中心街南北の通り名の歌を歌ってみよう。</p> <p>○京都の伝統的な町並みはどこに残っていますか。</p> <p>○京都の町並み保存のための努力を見てみよう。</p> <p>○維新の道や哲学の道を歩こう。</p> <p>☆市内中央部の南北の通り名の歌，伝統的建造物群保存地区，市街地景観整備条例，京町屋の構造</p>	<p>7385</p> <p>「京都東ロータリークラブ公開講座③大倉達也「歴史都市と住まい」</p> <p>84分 社会教育</p> <p>2000年</p>
6	京菓子	<p>○京都のおみやげにどんな京菓子がありますか。</p> <p>○南蛮菓子について調べよう。</p> <p>○季節を代表する京菓子をあげてみよう。</p> <p>○有名な社寺と関係の深い京菓子を調べよう。</p> <p>☆京都を代表する和菓子（やきもち，あぶりもち，長五郎もち，みたらし団子など）</p>	<p>3144</p> <p>「京の魅力 美のすべて18 京料理／京菓子」</p> <p>31分 社会教育</p> <p>1994年</p>
7	京野菜	<p>○京野菜とは何ですか。</p> <p>○京野菜は何種類くらいあるのか。</p> <p>○京野菜を使った京料理の代表は</p> <p>○「おばんざい」とは何ですか。</p> <p>☆京の伝統野菜，ブランド京野菜，京都を代表する京野菜（賀茂なす，九条ねぎなど）おばんざい</p>	<p>7391</p> <p>「京の伝統野菜一すぐきの里一（上賀茂）」</p> <p>15分 小（中学年）</p> <p>2000年</p> <p>京野菜を使った「料理教室」もできる。</p>
8	京言葉	<p>○京ことばのベスト10を決めよう。</p> <p>○いろいろな場面での「エライ」の言葉の意味を説明してみよう。</p> <p>○新聞の記事を京ことばで読んでみよう。</p> <p>○アクセントに注意して京ことばで会話してみよう。</p> <p>☆京ことば</p>	<p>ホームページ</p> <p>「京ことば」覚えておくれやす</p> <p>アドレス</p> <p>http://www.kyoto-np.co.jp/kp/ojikoji/kotoba/kotoba.html</p>
9	4大行事	<p>○京都の4大行事を知っていますか。</p> <p>○葵祭・祇園祭・時代祭・五山の送り火の中から，2つ選ん</p>	<p>6369</p> <p>「四季に咲く京都三大祭」</p>

	<p>で調べてみよう。</p> <p>○京都の年中行事にはどんなものがありますか。</p> <p>☆葵祭, 祇園祭, 五山の送り火, 時代祭</p> <p>さまざまな年中行事</p>	<p>30分 社会教育</p> <p>?年</p>
10	<p>伝統工芸品 1</p> <p>○京都の伝統工芸品にはどのようなものがありますか。</p> <p>○経済産業大臣指定の伝統工芸品とは</p> <p>○伝統工芸品に触れてみるには。</p> <p>○伝統工芸品を学ぶためには,</p> <p>☆経済産業大臣指定の伝統工芸品, みよこメッセ, 京都市伝統工芸館</p>	<p><u>2070</u></p> <p>「京の伝統産業 (総集編 1)」</p> <p>15分 小 (中 高学年)</p> <p>1989年</p>
11	<p>伝統工芸品 2</p> <p>○西陣織, 友禅染, 清水焼, の中から一つを選んで, その歴史, 製造行程, 販売ルート, 後継者について調べてみよう。(調査・発表課題)</p> <p>☆西陣織, 友禅染, 清水焼</p>	<p><u>3161</u></p> <p>「日本の伝統工芸品産業全集 1 織る・西陣織り」</p> <p>26分 社会教育</p> <p>1992年</p>
12	<p>生け花とお茶</p> <p>○生け花の歴史をふりかえろう</p> <p>○茶道の歴史をみてみよう。</p> <p>○茶道の家元について調べよう。</p> <p>○生け花や茶道と仏教の関係についてまとめよう。</p> <p>☆華道, 池坊, 茶道, 三千家, 千家十職, 千利休</p>	<p><u>3148</u></p> <p>「美のすべて 22 茶の湯」 社会教</p> <p>29分 社会教育</p> <p>1994年</p>
13	<p>京の四閣</p> <p>○京都の三閣や四閣とよばれる建物をまとめてみよう。</p> <p>○金閣について調べよう。</p> <p>建物の各部の名称や池の名前, 茶室などについても詳しく調べてみよう。</p> <p>○銀閣についてまとめよう。</p> <p>○飛雲閣の建物の特色をまとめよう。</p> <p>☆金閣, 銀閣, 西本願寺飛雲閣, 芳春院呑湖閣</p>	<p><u>6302</u></p> <p>「京都・美の再見 7 金閣寺・銀閣寺」</p> <p>20分 小 (高学年)</p> <p>1996年</p>
14	<p>京都の生活</p> <p>○京都の伝説を1つ書き出してみよう。</p> <p>○京都のならわしを上げてみて, それをしているかどうかチェックしてみよう。</p> <p>○京都人の性格は全国ではどう見られているのか調べてみよう。</p> <p>○京都の有名なご利益スポットを見つけてみよう。</p> <p>☆弁慶石, へそ石, おけら参り, 京の着倒れ</p>	<p><u>8104</u></p> <p>「京の歳時記⑦新年を迎える (12・1月編)」</p> <p>49分 社会教育</p> <p>?年</p>
15	<p>未来の京都</p> <p>○景観, 文化, 観光を3つの柱とした京都の街づくりについて, 京都の未来を考える。</p> <p>○過去に京都市で実施された「21世紀・京都の未来」など優秀作に選ばれた案などを参考にいろいろな条件や見方から京都の将来について考える。</p>	<p>京都市が実施している「出前講座」を活用して, 専門家からアドバイスを受け, それをもとに考える。</p>

その他, 時間数の関係で増やすことが可能なテーマ等次にあげておく。

京都の姉妹都市 京都とノーベル賞 映画のまち京都 京都と能楽, 狂言, 歌舞伎
 京都の優良企業 京都に関係の深い歴史上の人物 京の七口, 京都の街道への出入り口
 深泥池(みどろがいけ)の自然 温暖化防止京都会議と京都議定書 京都と雅楽
 琵琶湖疏水 坂本龍馬と新撰組 京都の古墳 京都の庭園
 1テーマの中の項目でも, 1時間以上の学習が可能なものは多い。
 例, 世界遺産の中の「金閣寺」, 「二条城」や4大行事の「葵祭」, 「祇園祭」など

上記資料映像のほかに活用可能なビデオ資料の例

教材番号	タイトル	収録時間	対象	制作年
2586	信長ゆかりの地に行く!	17分	社会教育	1992年
6389	京つづり③ 京の色彩・いろどり	23分	社会教育	1996年
7142	京友禅を学ぶ	13分	小(中学年 高学年)	1999年
3149	美のすべて 23 生け花	29分	社会教育	1994年
3986	鴨川の源流を訪ねて	16分	小(高学年)	1994年
7981	京の橋	15分	小学生・中学生	2001年
1946	京野菜	10分	小(中・高学年)	1988年
6358	日本の食文化3 おばんざい歳時記	27分	社会教育	?年
2099	錦市場	13分	小(中学年)	1989年
6428	こらからの京都市(改訂版)	10分	小(中学年・高学年)	1998年

7. 今後の課題

地理的分野で学習のポイントは, まず1つは基礎・基本となる知識を生徒達がしっかり身につけることである。もう1つは, さまざまな地域の地理的特色を見つけ出すための学習方法が身につけて, 実際に学習したことをもとに必要な場合調べることができるかということである。学習の進め方についてはかなり教育現場に浸透し, 実践が行われているが, はたして効果は上がっているのだろうか。基礎知識を身につけることと, 探究的な学習が総合的に結びついて効果的な学習を進められるようもう一度原点に立ち返り実践を進めることが必要である。探究的な学習が, その時だけの学習ではなく, 世界や日本の枠組みをもとに, 自分の関わりから進んで調べてみるときに, はじめてこの学び方は効果を高めていくものと考え。身につけた学び方をあらたな探究的な学習を生む学び方へ展開させていくことが大きな課題である。

- 第1時 世界恐慌・・・・・・・・・・本時
- 第2時 世界恐慌への各国の対応
- 第3時 欧米の情勢と日本
- 第4時 日本の中国侵略
- 第5時 日中全面戦争

(2)本時の目標

- ・世界恐慌の概要について理解する。
- ・当時の経済のしくみの概要を具体的な資料をもとに考える。

(3)本時の指導過程

展開	教師の活動	生徒の活動と学習項目	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトを使って、大正から昭和のはじめの日本のようすを見せる。 ・「配給を待つ行列の写真」と「失業者の写真」でとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・勝手に日本語に訳させないようにする。
展開 1	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は、2枚の写真について考えることを伝える。 ・班活動の隊形をとらせ、班員で相談して各設問について意見を交換するように指示する。 ・各班が担当する設問を指示する。 ・各班に担当した設問の答を発表させる。また、違う答を持つ班がないかも確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考える歴史【13】のプリントで考える。 ・班活動の隊形でプリントの問題について相談する。 ・各班の代表が設問の答を白板に書く。 ・班ごとに発表し、その根拠(理由)も答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて教科書や資料集を参照させる。
展開 2	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の国力や地位、影響力について、プレゼンテーションソフトを使って説明する。適宜、発問する。 *第一次世界大戦の影響 *ヨーロッパの復興と過剰生産 *株価・農産物価格の急落 *他国への影響 ・座席を元に戻させ、ワークシート「世界恐慌」について板書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンを見ながら説明を聞き発問に答える。 ・板書を見ながら、ワークシートをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ合衆国の国力が飛躍的に伸びた要因と他国への影響について考えさせる。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習の記録」を書く指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の記録を書きながら、本時の授業を振り返る。 	

(4) 本時の資料

考える歴史【13】

「 」から見えるもの



↑
写真①

→
写真②



考える歴史【13】

「 」から見えるもの

- (1) 写真①の「看板」に掲げられている横は、何をしているところでしょうか？
- (2) 2枚の写真は、同時期に同じ国で撮影されたものです。どこの国でしょうか？
- (3) 写真①・写真②の中に書かれている、3つの英文の内容を日本語で書いてみましょう。
 <写真①-1> WORLD'S HIGHEST STANDARD OF LIVING

 <写真①-2> There's no way like the American Way

 <写真②>
 I KNOW 3 TRADES
 I SPEAK 3 LANGUAGES
 FOUGHT FOR 3 YEARS
 HAVE 3 CHILDREN
 AND NO WORK FOR 3 MONTHS
 BUT I ONLY WANT ONE JOB
- (4) 写真②の中で、看板の前に並んでいる人たちは、何のために並んでいると思いますか？
- (5) 問(3)から、この国は「どんな状態からどんな状態」になったと考えられますか？
- (6) このプリントのタイトル(題名)には、歴史上の出来事があてはまります。もっとも心当たりのいいタイトルを考えてみましょう。

4. 実践報告2 大正デモクラシー・社会運動の高まり

京都市立藤森中学校 第2学年

(1) 単元設定の理由

これまでの社会科、特に歴史的分野の授業では、教師が歴史的史実を巧みな話術や的確な資料などを整理することを中心に指導されることが少なくなかった。この学習では生徒がどうしても受け身の状態になりやすく、教師側もできるだけ生徒をひきつけるかが課題となる。そこで、今回は学習内容を「民衆運動」というキーワードを通して、護憲運動、米騒動、普通選挙運動、社会運動と連動して考えることで点による歴史学習を線で結ぶことをねらいに授業を計画した。また、治安維持法が社会運動を抑制していく役割をもち、後のファシズム化へつながることも学ぶために山本宣治の抵抗を漫画で紹介し、その墓碑に刻まれた言葉を用いて歴史から学ぶ授業をねらいとしている。

本校では、今年度の重点目標として「学ぶことに喜びを感じる授業」を掲げて研究をしている。そのために社会科では、平常授業の中で積極的にコンピュータの活用をすすめて、それによって生徒の興味・関心を引き出し、さらに、学びに対する達成感や成就感をもたせることにより、「学ぶ喜び」を感じさせようと考えている。幸い本校では、校内LANが整備されているために普通教室でもコンピュータが常時利用できるため、学習ビデオ(光京都ネット、教科学習ビデオ)などを活用した学習を進めることができる。

「第一次世界大戦とアジア・日本」

第1時 第一次世界大戦と日本

第2時	国際協調の時代
第3時	アジアの民族運動
第4時	憲政擁護運動と普通選挙法・・・本時
第5時	社会運動の高まり
第6時	新しい生活と文化

(2)本時の目標

- ・普通選挙法とセットで制定された治安維持法は、これまでの民衆運動の高まりや社会運動を抑圧するものであった。それを懸念して闘った山本宣治の資料からこの法律の持つ意味を考える。
- ・民衆運動の高まりが政治を変えていく力となり、大正デモクラシーとして形成され、それが憲政擁護運動、普通選挙法の実現にいたる過程について理解する。

(3)本時の指導過程

展開	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (10分)	米騒動の復習 (前時までの復習)	・資料①「新潟の米騒動(新聞記事)」をスクリーンに映して復習する。 →民衆の社会運動のきっかけになったことを知る。	・できるだけ生徒から答を導き出せるようにする。 ・ビデオ(2分)を見せることで復習をして理解させる。
展開1 (10分)	憲政擁護運動	・日露戦争後の政局について 政党と藩閥・官僚の交互の政権→1912年桂太郎内閣の議会無視→憲政擁護運動へと民衆運動が高まっていくことを知る。	・政治の政局に対して関心を持ち、民衆が立ち上がって変革しようとする動きをつかませる。
展開2 (15分)	政党政治の実現 普通選挙への歩み	・米騒動後の原敬内閣について 普通選挙を実現せず、納税条件が引き下げられたのみで不満→1924年再度、普通選挙をめざして憲政擁護運動をおこして、政党連立内閣が成立→1925年普通選挙法成立 ・普通選挙までの道のりを復習する。 「どのようにして普通選挙法を認めさせることができたのか」を考える。 ・1889年、1900年、1919年、1925年の社会をめぐる状況を復習する。	・当時の人々の期待感と失望感を感じ取らせる。 ・普通選挙を求める運動はさらに活発化していたことを強調する。 ・選挙制度の変遷を教科書の資料とスクリーンでのプレゼンテーションで確認する。 ・それぞれの年代に何があったのかを復習し、民衆運動との関係を考えさせる。
展開3 (15分)	普通選挙法と治安維持法	・普通選挙法が認められた同じ年に成立した治安維持法の内容を知る。 「なぜ普通選挙法と治安維持法が	・治安維持法が共産主義に対する取り締まりだけでなく、社会運動や民衆運動も警戒していたことをおさえる。

治安維持法への抵抗

同じ年に制定されたのか」を考える。

・治安維持法について

資料②「山本宣治はなぜ治安維持法に反対し続けたのか」(漫画)をスクリーンに映して一緒に考える。山本の墓碑に「山宣ひとり孤塁を守る。だが淋しくない。背後には大衆が支持しているから」が何度も文字が塗りつぶされても民衆の手によって掘り出された理由を考える。

- ・普通選挙実現により、民意がさらに大きくなり、社会運動が活発になることを政府が恐れていたことに気づかせる。→社会運動や民主主義運動の取り締まりを強化し、後の15年戦争へのきっかけとなることを予告する。
- ・漫画は少々難しいので、指導者が補足して説明しながら見ていくようにする。
- ・民衆運動を抑えるために、何度も塗りつぶされたが、この後も戦時中も何回も掘り出されたことから、政府の圧力に屈せずに、民衆運動は抵抗し続けていたが苦しい立場に追いやられたことも理解させる。
- ・ビデオ(約2分)を見せることで復習をして理解させる。

(4)本時の資料

- ・資料① 「新潟の米騒動」 出典『子どもとつくる近現代史』(日本書籍)

●新潟市騒擾そうじょう(さわぎ・騒動がおこるという意味)

17日夜、突如として、新潟市に起これる群衆の激発は、大きな不安を全市にみなぎらせるも、その内容と程度は、警察当局により、厳禁を命令され、止むをえず、ここに発表する自由なし。

(1918年(大正7年)8月19日「新潟新聞」より)

●厳戒中の新潟市

18日は、朝から「騒擾がまた起こる」、うわさがいたるところに伝わり、早くも、その被害を恐れて、家財を運び出し、非難するもの多し。ことに、市内各富豪の邸宅や、米問屋たちは、みな生きたる心地もなく、非難や防備にいそがしきありさまなり。

軍隊が危険と思われる各町内に分かれ、武装いかめしく、警戒する状態は、厳戒令が発表されしによる。さらに、私服巡査は各所に無数に配置され、時々、通行人を「誰か！」と大声で、たずね、すこぶる緊張が高まっている。

(1918年(大正7年)8月19日「新潟新聞」より)

- ・資料② 「山本宣治」に関する漫画 《略》 出典『子どもとつくる近現代史』(日本書籍)
・ビデオ教材 光京都ネット 教科学習用ソフト
中学校社会VOD作品 『2度の世界大戦と日本』より「大正 民衆の時代」

5. 実践報告3 江戸時代についての事象～生活, 文化等を1文字の漢字で表してみよう
京都市立深草中学校 第2学年

(1)単元の見目

- ・歴史に対する関心を高め, 歴史事項を意欲的に追究する姿勢を養う。
- ・江戸時代の流れの中から, その時代の特徴を考察させる。
- ・江戸時代のさまざまな資料を収集させ, 適切に選択活用するとともに, 結果をまとめ発表する力をつける。
- ・江戸時代の流れについて理解し, その知識を身につける姿勢を養う。

(2)授業計画

- 近世の日本 江戸幕府の成立と鎖国 (4 h)
- 産業の発達と幕府政治の動き (6 h)
- 開国と近代日本の歩み 欧米諸国の進出と日本の開国 (5 h)
- 適切な課題を設けておこなう学習の時間 (4 h)
 - 1文字漢字の構想を考える
 - プレゼンテーションソフトを使った1文字漢字の作成
 - 教室内での発表
 - 体育館での発表 クラスの代表者による発表・・・本時

(3)授業の展開

活動内容	指導上の留意点
1文字漢字の説明を聞く。 漢字の選定と選んだ理由をまとめる。	教科書, ノート, 資料集の利用方法についてのアドバイスをする。
プレゼンテーションソフトでの1文字漢字の編集をする。	課題を持つ生徒へのアドバイスをする。 時間的に不足する場合は補習的な時間を保障する
クラスごとにプレゼンテーションソフトを使って漢字の発表をおこなう。	報告を聞き取るプリントを配布してしっかり聞くように指導する。
代表生徒による体育館での学年全体への発表をおこなう。	限られた時間を有効に使うためにコンピュータの操作などは練習させておく。

(4)プレゼンテーションソフトによる発表例 (次のページに掲載)

①

・江戸時代を漢字一文字にあらわしてみると・・・

支 と言う字を
思い浮かべました

②

理由は・・・

- ・江戸時代の人口の85%の農民が江戸幕府の厳しい支配を受けて、
- ・農民同士が支え合ったと思ったので支という字を思い浮かべました。
- ・農民の他にも大名や町人も支配を受けてました。

③

町人

- ◆ 厳しい支配は、町人に対しては、
- ◆ (江戸)町奉行や大阪町奉行などがありました。

④

大名

- ◆ 大名に対しての幕府からの支配は武家諸法度という法律を定めました。
- ◆ 一、武士は学問と武道を常に心がけること。
- ◆ 一、法度にもむく者は国内に隠しておいてはいけない。
- ◆ 一、幕府の許可なく結婚してはいけない。
- ◆ など・・・

⑤

農民

- 農民に対しての幕府からの支配は、慶安の御触書や五人組、特に五人組は、農民同士が支え合ったと思います。

⑥

慶安の御触書 1649(慶安2)年

- 一、朝は早起きして草を刈り、昼は田畑の耕作をし、晩には縄をなつて俵を編み、それぞれの仕事におこたりにく励むこと。
- 一、酒や茶を買って飲んで、ならない。妻子も同じ。
- 一、百姓は衣類については、麻の布と木綿以外のものは、帯・衣裏などにもつけては、いけない。
- など・・・

⑦

結論

- ぼくは、このように幕府からの支配をうけ人々が支えあったと思ったので、
- 支という字を思い浮かべました。

生徒作品2

①

私の選んだ漢字は…

文化の **文** です！！

②

なぜ、『文』を選んだかと言うと…

この江戸時代には、おもに京都や大阪などの上方で、庶民中心の新しい文化の元禄文化と、文化の中心が上方から江戸に移り、文化・文政年間の江戸の町人を中心とする化政文化が発達したからです。

③

この文化の影響で…

- ・小説や俳句・俳諧や浮世絵などのすぐれた作品が残され、多くの人々に親しまれました。

④

小説では…

- ◆滝沢馬琴の『南総里見八犬伝』、十返舎一九の『東海道中膝栗毛』があります。

⑤

俳句・俳諧では…

- ♪松尾芭蕉が連歌から分かれた俳諧を確立。紀行文『奥の細道』を書きました。
- ♪小林一茶は『おらが春』を歌いました。

⑥

浮世絵では…

- ◆歌川広重・葛飾北斎は風景画を、喜多川歌麿は美人画をかきました。そして、浮世絵の中でも、役者絵や美人画は現在の写真やポスターみたいなもので、江戸みやげとしても人気でした。また、流行の髪形や着物の柄などを世間に伝える役割も果たしました。

⑦

- ◆このように、この元禄文化と化政文化の2つの文化があったからこそ、今でもすぐれた作品として残されていると思ったので、私は「文」と言う漢字にしました。

⑧

- これで、私の一文字漢字の発表を終わります。
- ありがとうございました。

<公民的分野>

1. はじめに

前回、京都市が本研究会で研究発表を実施したのが平成12年で、今回も研究主題として「学び方を学ぶ社会科学学習」を掲げた。そして、前回の公民的分野の課題研究としては、以下の2つを設定し議論が深められた。

- ① 具体的事例を通して、政治・経済の「見方や考え方」の基礎を養う。
- ② 課題を設けて追究する学び方を行う。

公開授業の実施とともに、①については、新聞記事を用いた「生徒自らが学ぶ資料」づくりの実践事例を発表し、一定の成果があったと考えている。そこで今回は、②の「課題を設けて追究する学び方を行う」についてさらに研究を深めたいと考えた。そこで、今回のサブテーマ「社会的事象を自己との関わりで捉える授業の試み」にもあるように、社会科学学習における学習課題を、自己との関わりの中で深くとらえさせるために、「総合的な学習の時間」との関連を強めるとともに、「体験的な学習」を公民的分野での社会科学学習の指導に導入することで、生涯学習の基本ともなる長期的な「継続した学び」を生徒自身に獲得させることを研究課題とした。

2. 公民的分野と「総合的な学習の時間」の連携について

「環境」や「福祉」、「平和」をテーマとした「総合的な学習の時間」（以下、総合学習と称す）が各校で実践されている。これらのテーマは現代社会における社会問題でもあり、公民的分野の学習との関連もたいへん深い。そのため、これまでの総合学習の指導においては、社会科教員が学習計画においても主導的な役割を担ってきたのではなかろうか。もちろん、総合学習では、学習内容そのものよりも、学習の過程とともに学習したことの他者への発表形態を重視することが強調されている。ここに着目すると、今回の研究主題である社会科の学習指導で「学び方を学ぶ」と、総合学習で求められている学力とは非常に近いものがあると考えられる。基調提案にあるように、社会科と総合学習との関連のあり方については大きく4つの形態が考えられるが、とくに公民的分野の学習との結びつきを考えると合科・融合の形態を図ることが最も適切であり、かつ実践しやすいのではないだろうか。今回の公民的分野の公開授業でも、総合学習との合科の要素が数多く含まれていることにも留意されたい。

3. 公民的分野における「体験的な学習」について

現行の学習指導要領における「体験的な学習」の内容について、以下にあげてみた。

学校学習指導要領－社会－ 第3章 指導計画の作成と内容の取扱い

2. 指導の全般にわたって、資料を選択し活用する学習活動を重視するとともに作業的体験的な学習の充実を図るようにする。

また、総則編の「解説」には以下の文章が明記されている。

学校学習指導要領解説－総則編－ 第3章 教育課程の編成及び実施

体験的な学習や問題解決的な学習は、生徒に自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ態度を身に付けせるとともに、学ぶことの楽しさや成就感を体得させる上で有効である。

（中略）

各教科等において習得すべき知識や技能も体験的な学習や問題解決的な学習を通すことによって、生徒一人一人のその後の学習や生活において生かされ総合的に働くようになるものと考えられる。

では、どのような「体験的な学習」が、社会科のとりわけ公民的分野での学習に必要なのだろうか。旧の教育課程と比較しても授業時数が大きく削減され、前項で述べたように新しく総合学習の時間が設定された現在の教育課程では、そのような意見が指導者のなかからおきても仕方のない状況である。

しかし、これまでの社会科学習でも「体験的な学習」がとり入れられた授業が行われてきたことは事実である。とくに公民的分野では、模擬裁判の形態をとった上で原告と被告に分かれてのディベート（討論形式）授業や国際理解教育の視点から現存する南北問題を取り扱ったロールプレイング（立場の異なる役割を与えての学習活動）を用いた授業が知られている。これまでの社会科教員が実践してきたこのような授業が評価されて、さらに、その一端が教科書にも掲載されている現状を考慮すると、やはり「体験的な学習」の有効な活用が必要であり、かつさらなる研究の余地が見出せるものと感じている。そこで前項でも述べたように、年間の学習指導計画の中に特設の時間を配当してその実践をすることにも意義が見出せるだろうし、または総合学習でもテーマとして扱われることが比較的多い「環境」や「人権」などの分野であれば、社会科の公民的分野の学習と合科・融合した指導計画を作成することで、社会科のみにとどまらない学習指導全体にも優れた影響を及ぼすことが期待できると思われる。

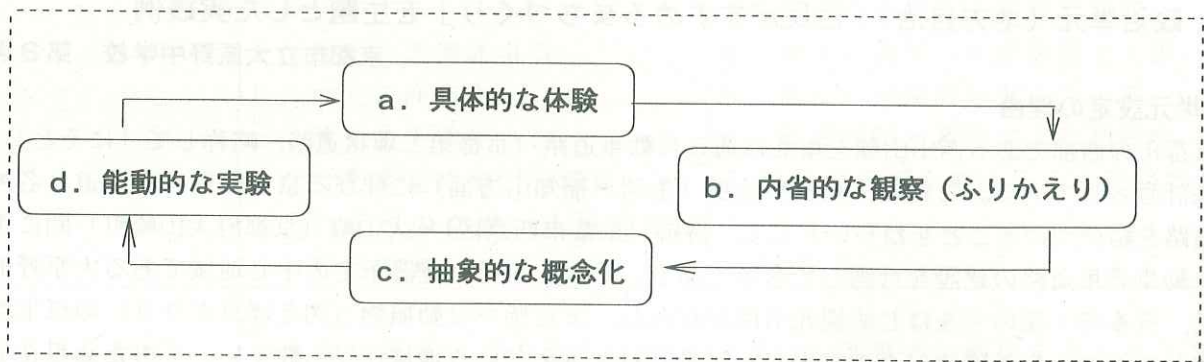
4. 体験的な学習後の「ふりかえり」について

結論から言えば、体験的な学習を行うときは、学習者に対してどのように「ふりかえり」をさせるかが重要になる。体験的な学習後に、体験者自身にその感想を求めることから始まり、同じ体験をした他者の感想を聞くことで自らの体験についてさらに考察を深めること（社会化した思考とも言える）ができる。その段階を経た学習者に対して、指導者が「そこで何を学んだか」、さらに「それがどのような社会のしくみに通じているか」などのように、学習者自身の直接的な体験を、抽象的な概念の形成や知識の獲得までに至らせることを重要視しなければならない。以上のことを主張する根拠として、社会科という教科を生み出したアメリカの教育史を事例にして具体的に論じてみたい。

体験的な学習の重要性を認めて理論化した人物としてジョン・デューイ(1859-1952)があげられる。「教育は生活の必然から生じる経験の再構成である。」¹⁾といったデューイの教育哲学の思想がどのような結果を生み出したかについては、今なお議論の分かれるところではある。とくに、アメリカにおいては、キルパトリックによるプロジェクト法が知られるように、デューイ以後の進歩主義教育が多様な展開をみせて、従来の教科ですらなくそうとする動きがみられるに至って、「伝統主義教育」（従来の教師主導による知識習得型）と「進歩主義教育」（デューイの唱えた子どもの経験にもとづく知識習得型）の二極対立構造をもたらしてしまったという教育史がある。1957年のスプートニック・ショックを経て、アメリカ全土をまきこんだ学力向上政策のもとで進歩主義教育はやがて、「教科にもとづくカリキュラムを軽視する子ども中心主義」という批判を浴びることになってしまったのである。

同じような経緯がわが国でもみられ、最近まで教科指導を重視する側と体験的な学習を重視する立場との教育論争が続けられたが、これが社会問題化することで様々な要因によりゆがめられてしまい「ゆとり教育か学力重視か」というそれまでになかった展開をみせて混乱を生み出すに至っていると考えられはしないだろうか。このような教育論争に対して一石を投じるものとして、体験学習を通じて継続的な学びとともに知識の獲得をももくろんだ「経験学習サイクルモデル」というものがある。これを今回の公民的分野の研究仮説を支えるものとして具体的な実践事例に含んでいきたいと考えた。次の図表に注目してもらいたい。

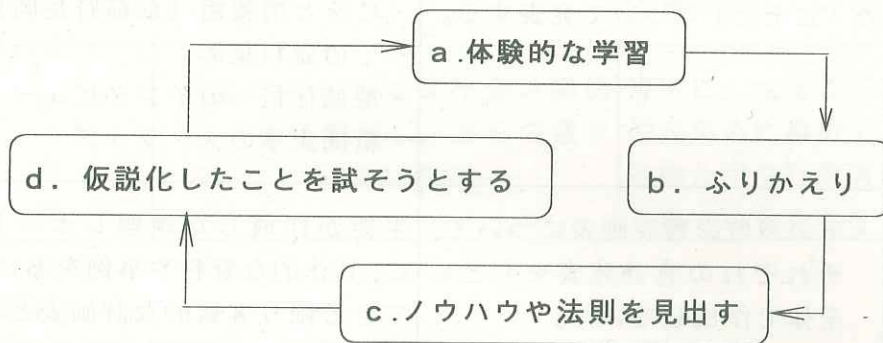
¹⁾ ジョン・デューイ、市村尚久訳『学校と社会・子どもとカリキュラム』講談社学術文庫、1998、p.273



<図1> コルブの経験学習サイクルモデル(1984)

この図はアメリカの教育心理学者デイヴィッド・コルブが、1984年に彼の著作である『体験学習』(原文“Experiential Learning”)のなかで主張したものである。上記の学習過程を通じて繰り返し形成される知識は、教室や学校を離れても学習者自らの興味と関心でもって新たな経験を求めて学習が深められるとしたものである。筆者なりに理解したことを簡潔にまとめると次のようになる。

- a. 具体的な体験 …指導者が、意図した体験的な学習。
- b. ふりかえり …学習者が、体験で学んだことを自らで整理する学習。
(全体に発表することで、他者の体験と自らのものとの比較できる)
- c. 抽象的な概念化…学習者が、体験で得た知識を何らかの法則やしくみにあてはめようとする学習。
- d. 能動的実験 …学習者が、これまでに得た知識をもとにして、仮説を見いだして新たな体験を自ら計画することを考える学習。



実は上記のようなモデルは、社会科でも従来から実践されていることで、私たち指導者がとりたてて気づいていないか無意識のうちに指導の過程で組み入れていることでもある。特に留意すべきこととしてあげた体験的な学習後の「ふりかえり」(モデルのなかでは「内省的な観察」とある)を工夫して、学習者に的確な発問を投げかけることで、今回のサブテーマである「社会的事象を自己との関わりで捉える」学びとなりえると考えている。公開授業では、京都御池中学校の上畑教諭により、バザーという体験的な学習を実施した後の「生産と企業」についての公民学習が発表されるが、そこでも学習者である生徒たちにどのような発問をすることで「ふりかえり」が生み出され、次の学習過程に展開されるかが授業分析の視点として注目される。

5. 政治単元（地方自治）「住民がすすめるまちづくり」を主題とした実践例

京都市立大原野中学校 第3学年

(1) 単元設定の理由

京都市の西部である西山山麓を南北に通る自動車道路（京都第二環状道路、略称して「にそと」）が現在計画されている。これは、京都府北部（亀岡・福知山方面）に伸びる京都縦貫自動車道と名神高速道路を結びつけることをねらいとして、沓掛（京都市西京区）・大山崎（京都府大山崎町）間に新たに自動車専用道路の建設を計画したものである。しかし、その建設予定の中心地域である大原野地区には、善峯寺・花の寺をはじめ観光名所が点在し、また稀少な動植物（例えばカタクリ）の原生地も分布しており、自然環境保全の立場から建設反対を訴えている地域住民も数多い。そのため現在でも道路公団が主催して行政側と地域住民を交えた説明会が定期的に開かれており、本校生徒の保護者のなかにもそれに参加している人たちも数多い。

そこで、地方自治単元の項目にある「住民がすすめるまちづくり」学習として、京都第二環状道路の建設をめぐる仮想住民集会を開き、地方自治の理想像について具体的に考えていきたい。

(2) 本時の目標

生徒それぞれに社会的な立場を設定した上で「にそと建設の是非を問うまちづくり集会」を体験させて、京都第二環状道路建設にともなう大原野地域に与える影響を多面的に理解し、住民の多くの理解を得られる対策案を考える。

(3) 本時の指導過程

学習項目	学習者の活動	指導上の留意点									
京都第二環状道路（「にそと」）について知る。	・夏休みのレポート課題とされた「にそと」について発表する。	調査方法について事前指示しておく。 ・にそと情報館（京都府長岡京市）での資料集め ・地域住民へのインタビュー ・新聞記事のスクラップ									
京都第二環状道路が周辺住民に与える影響を分析する。	・下の環境影響評価表について、それぞれの意見発表をもとに全体で作成していく。 <table border="1" data-bbox="475 1518 896 1823"> <thead> <tr> <th></th> <th>地域の経済面</th> <th>地域の環境面</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建設前</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>建設後</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		地域の経済面	地域の環境面	建設前			建設後			生徒が作成した課題レポートを中心に、具体的な資料や事例をあげさせて、できる限り客観的な評価表となるようにする。 ○予測される学習者の回答 <自動車道路ができる利点> ・一般道路での自動車渋滞の軽減。 ・大阪や京都府北部への時間短縮。 <自動車道路ができる問題点> ・景観の悪化。 ・地元の農業への悪影響。
	地域の経済面	地域の環境面									
建設前											
建設後											
「にそと」建設の是非に向けた仮想「住民まちづくり集会」を実施する。	・仮想「住民まちづくり集会」では、学習者自身が、以下のどれかの社会的立場を代表する人となって参加することを	話し合いの前に、建設予定地を含んだ大原野地域の地図をa～dグループに配布しておく。									

○ロール・プレイング	条件とする。 a. 地元の農業従事者 b. 地元の商店主 c. 地元の中学生 d. 自動車道路公団の職員 ・それぞれの立場から意見を出して発表する。	○予測される生徒の回答の傾向 a. 地元の農業への悪影響を主張。 b. 地元への経済効果について。 c. 環境問題と建設による利便性。 d. 広く京都府全般からみた経済効果。
○ふりかえり 「社会化の段階」 →発問例① 「抽象的な概念形成の段階」 →発問例②・③	・自らの意見がどのように形成（もしくは変更）されたかを整理して、各自のノートにまとめる。 <指導者の発問例> ①「条件 a～d. による集会の発表を聞いて、それまでの自分の意見が変わった人は発表しなさい。」 ②「なぜ a～d. のグループで意見が異なったのか？」 ③「できる限り地域住民の多くの理解を得られる改善案を考えて、発表しなさい。」	まずは、学習者の感想を出しあうことから始める。 ①各自の感想を出しあった後、質問の時間をとるなど、他者の意見を再考する時間を設定する。 ②社会的な立場の違いにより、高速道路建設によるメリット・デメリットが異なることに気づかせる。 ③にそとの場合、環境面での配慮として、花の寺と大原野神社を通過する地区を地下トンネルとする改善案が検討されていることを知らせる。
まとめ	・「にそと」と地域社会の関係について整理し、自らの意見をノートにまとめる。	現実に、地元で開催が予定されている住民集会に参加すると仮定した場合、道路公団や行政側にどのような質問をしたいかを考えさせる。

(4)参考資料

- ・国土交通省近畿地方整備局 京都国道事務所のホームページ
<http://www.kkr.mlit.go.jp/kyoto/>
- ・京都第二外環状道路「にそと」のホームページ
<http://www.kyoto.kkr.mlit.go.jp/contents/nisoto/>
- ・京都西山の自然と文化を守る会のホームページ
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/no2soto/>

6. 政治単元（参政権）「公正な選挙を支える選挙管理委員会」を主題とした実践例 京都市立加茂川中学校 第3学年

(1)単元設定の理由

基本的人権のひとつである参政権は、未成年である中学生にとっては身近なものとして感じにくい権利ではなかろうか。そこで指導者としては、学校における生徒会選挙や学級選挙を事例としてあげること、何らかの指導の手がかりは得られよう。しかし、日常の学校生活で体験している「身近な

選挙」をみても、決して公正とは言えないような態度や認識で行われていることに懸念を感じることも多いのではないだろうか。また近年、国政選挙や地方選挙の投票率の低さが社会問題化しているが、とりわけ選挙権を得たばかりの20歳代といった青年層の「政治の無関心」が懸念されている。このような社会問題を改善するためにも、社会科の公民的分野において、新たな指導法を模索していかなければならないのではないだろうか。

そこで、選挙管理委員会の協力のもと、実物の投票箱と投票用紙を用いた仮想選挙を体験することで、現実の選挙がいかんして公正に行われているかを理解させたい。そこから参政権の具体的事例を理解するとともに、地方自治体によっては住民投票という形式で14歳以上の未成年者が政治に参加する権利を認め始めた現状についても取り上げていきたい。

(2)本時の目標

- ・ 私たちの「参政権」が、選挙管理委員会による厳正かつ公正な選挙の実施によって保障されていることを理解する。
- ・ 地方自治体によっては、中学生も参加した住民投票が行われていることを知る。

(3)本時の指導過程

学習項目	学習者の活動	指導上の留意点
資料の提示 (選挙の開票作業)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開票作業をはじめ選挙の運営や事務作業をしごととするところはどこかを考えて発表する。 	選挙の運営と事務作業は、それぞれの地方公共団体の選挙管理委員会が担当していることを理解させる。
参政権	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公正な選挙を行うことが、私たちの基本的人権のひとつである「参政権」の保障につながることを理解する。 ・ 地方公共団体では、首長からの独立性をもった機関のひとつとして選挙管理委員会があることを理解する。 	期日前投票や代理投票・郵便投票も、広く国民の参政権を認めるために実施されていることをおさえる。
模擬投票を行う。 ○模擬体験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 架空の市長選挙の投票と開票作業を体験する。 ・ そこではじめて分かったことや疑問に感じたことをノートにまとめる。 ・ 工夫された投票用紙が使われることでどのような効果があるかを考える。 	<p>本物の投票箱と投票用紙（見本）を使用する。</p> <p>厳正な形式で選挙が行われていることを体験させたい。</p> <p>「ユポ」という特殊な合成紙が投票用紙として利用されて、開票作業がすみやかになったことを解説する。</p>

<p>○ふりかえり</p> <p>「社会化の段階」 →発問例①</p> <p>「抽象的な概念 形成の段階」 →発問例②・③</p>	<p>・選挙と開票作業行動を体験して、「選挙を行なうこと」と「選挙を管理すること」について各自の意見を出しあう。</p> <p><指導者の発問例></p> <p>①「あなたが将来、選挙権を得て投票に行った時、どのようなことに注意したいと考えますか。」</p> <p>②「投票率の低下を防ぐために、各選挙管理委員会はどのような工夫を行っているのだろうか。」</p> <p>③「学校で行っている生徒会選挙や学級選挙との違いは何か。」</p>	<p>まずは、学習者の感想を出しあうことから始める。</p> <p>①他の学習者の発言内容について、メモすることを指示して、自らの発言や感想を再考する機会を与える。</p> <p>②選挙に関心をもってもらうために広く市民を対象にして広報活動がなされていることをおさえる。</p> <p>③公正な選挙が、国民の基本的人権の保障にとって重要であることを気づかせたい。</p>
<p>まとめ</p>	<p>・2003年5月に行われた長野県平谷村での住民投票では、中学生も参加したことを知る。</p> <p>・本時の学習内容を整理して、プリントにまとめる。</p>	<p>身近な地方公共団体で20歳以下の住民も対象にした住民投票の事例を調べて、自分が有権者ならどのような判断のもとで投票するかをまとめさせる。</p>

(4)参考資料

- ・京都市選挙管理委員会事務局のホームページ
<http://www.city.kyoto.jp/senkyo/main.html>
「選挙物品貸出事業」のページを参照。

6. 今後の課題

現時点で考えられる課題を以下に列举した。

- ①「総合的な学習の時間」との関係を深めるためにも、公共機関やNGO団体とのさらなる継続的な学習指導体制を整えていく。
- ②「体験的な学習」をどのように評価（観点別評価）に位置づけるかについて、さらなる研究を進めていきたい。
- ③「学び方を学ぶ」学習から得られた社会科の学力を、さらにどのように発展・深化させるか。

①については、京都市が産学公連携事業として、平成19年1月に開設予定の「スチューデントシティ・ファイナンスパーク」が注目されよう。これは、小中学生に勤労観・職業観を育む「キャリア教育」等のさらなる推進を図ることを主たる目的としている。そこでの教育プログラムは、一般市民や外部教育団体の協力のもとで、施設での体験学習を中心としたものとなるようである。今後、それぞ

れの学校での社会科指導とどのように関連を図るかという指導計画づくりが行われるが、言うまでもなく今回の研究成果が、そこに活かされるよう研究会としても研鑽していきたい。

②については、今回の研究発表では「総合的な学習の時間」に委ねたが、実践発表事例では、授業内で「体験的な学習」を取り入れているため、形成的評価の主要な一部として評価をどう考えるのかという問題が生じる。これについては、くわしく言及はしなかったが、体験に重点を置くと「関心・意欲・態度」の観点を中心とした評価規準を作成することができよう。しかしそれにとどまらず、今回詳細に取り上げた「ふりかえり」を生む「体験的な学習」にするためには、よりさらに他の観点から評価する目を私たち指導者がもたなくてはならないのではないかと考えている。

③については、今回の研究発表での協議や事後の検討を得てから考えて方向性を出すべき問題であるが、最近とくにいわれている小中一貫を見据えた社会科指導を考慮すると、これまでよりも大きな視野で考えなくてはならない課題であろう。上記したように、「キャリア教育」や「経済教育」、「法教育」など、公民的分野にかかわる内容においても従来の社会科指導にとどまらない新たな「教育」が、一般社会から要請されている。しかし、これらが、新たに社会科での重点的な指導単位としてつけ加わるのではなく、これまでの社会科学習指導計画の工夫程度で済むようになることが求められているのではないだろうか。